

シラヒゲウニ増殖場の生産性向上に関する調査研究—Ⅲ

(Naga) 調査

島袋新功

1. 目的および内容

シラヒゲウニ増殖場（ウニ礁）の生産性の向上と効率的な活用を図り、ウニ資源の増大とウニ漁業の振興を目的とする。屋嘉田と伊計のウニ礁は、前年に比べシラヒゲウニが減少しナガウニが増加した。

2. 調査方法

ウニ礁に調査測線を設定し、測線に沿って1 m幅内に生息するシラヒゲウニとヒメジャコの殻径測定、ナガウニの計数などのトランセクト・潜水調査を行った。

3. 結果と考察

調査は屋嘉田が8月6～9日に測線2本で前年同様、伊計が7月16～17日に測線1本（Tr. 2）でシラヒゲウニだけ計測した。

調査結果を表1に1989年からの結果と合わせて示した。シラヒゲウニは両ウニ礁共に減少し、特に伊計ではウニ礁内外及び東側リーフでも殆ど見られなく、1989年比2まで激減した。屋嘉田ウニ礁におけるナガウニは高密度で前年より増加し、ヒメジャコガイが減少した。なお、ヒメジャコガイは恩納村漁協による漁業生産管理が行われている。

表1. ウニ礁におけるシラヒゲウニ、ナガウニ、ヒメジャコガイの生息状況変動

場所年月	シラヒゲウニ			ナガウニ			ヒメジャコ			
	総 体数 ×10 ³	平均 密度 N/m ²	対 比	総 体数 ×10 ³	平均 密度 N/m ²	対 比	総 体数 ×10 ³	平均 密度 N/m ²	対 比	
屋嘉田	1989. 8	12.5	0.19	100	1,037.5	15.72	100	6.6	0.10	100
	1990.10	4.1	0.06	33	1,393.7	21.12	134	8.7	0.13	132
	1991. 8	1.7	0.03	14	1,457.3	22.08	140	7.2	0.11	109
伊計	1989. 8	27.0	0.49	100	265.7	4.83	100	3.9	0.07	100
	1990.10	6.3	0.11	23	351.7	6.39	132	3.0	0.05	77
	1991. 8	0.6	0.01	2						